臥龍橋

曲がりくねった線を描く、池を渡るように配された飛び石の名前は、臥龍橋といいます。この名前は「隠れた竜の橋」を意味し、曲線を描く飛び石の配置が、まるで竜の背中を想起させることからそう名付けられました。水面に映る空や雲が、この飛び石をまるで天を舞う龍の姿のように見せています。

飛び石は、京都の鴨川の橋を支えていた橋脚から切り出されています。その橋が建設されたのは 16 世紀でしたが、後に取り壊され、より大きな橋が作られました。

石材を再利用する手法は、平安神宮の西神苑、中神苑、東神苑を設計した作庭家、七代目小川治兵衛の特徴的なスタイルです。